

80th ANNIVERSARY



株主の皆様へ

第114期 第2四半期のご報告

2022年4月1日～2022年9月30日

株式会社 サンエー化研

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご支援とご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

第114期第2四半期連結累計期間（2022年4月1日～2022年9月30日）における当社グループを取り巻く経営環境と事業活動の概況並びに通期経営成績の見通しについてご報告させていただきます。



代表取締役社長 山本明広

当第2四半期の経済情勢

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、中国・上海のロックダウン解除を受けて企業の生産活動が自動車業界を中心に持ち直してきているものの、急激な円安や資源・エネルギー価格の高止まりによる物価上昇により、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当社グループの業績概況

当社グループの業績概況といたしましては、中国・上海でのロックダウンによるサプライチェーンの停滞・混乱から過剰在庫となった液晶パネルの生産調整の影響が長引いている影響で、機能性材料セグメントの受注が大幅に減少したことが響き、減収となりました。損益面では、原油価格の高止まりによる原材料価格や電力燃料費の高騰による製造原価上昇分を販売価格に転嫁しきれなかったことに加えて、機能性材料セグメントの販売量減少による固定費率の上昇が重なり営業赤字となりましたが、経常損益は受取配当金や為替差益が寄与し黒字となりました。

また、9月23日から24日にかけて静岡県に甚大な被害をもたらした台風15号により、当社静岡工場の外部倉庫が浸水被害を受けて棚卸資産の一部が損傷し、特別損失を計上いたしました。

To Our Shareholders

その結果、当社グループの経営成績は、売上高140億59百万円（前年同期比4.8%減）、営業損失1億47百万円（前年同期は営業利益6億45百万円）、経常利益27百万円（前年同期比96.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失18百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益5億23百万円）となりました。

今後の施策と通期業績見直し

今後も機能性材料セグメントにおける光学業界での需要低迷と、インフレーションによるコスト高の継続が予想されますが、以下の施策によって売上高の確保と収益性の改善に取り組んでまいります。

軽包装材料セグメントにつきましては、今後も堅調な需要が見込まれる電子レンジ対応食品包材「レンジD o !」の市場開拓を継続し、需要の創出をはかります。また、リサイクルしやすいモノマテリアルタイプのエアー緩衝材、環境負荷の低いバイオマスプラスチックや生分解性プラスチックを使用した包材、紙を主体とする包材の開発を進めてまいります。

産業資材セグメントにつきましては、目止め層に樹脂を使用しないことにより環境負荷が低く好評な剥離紙「エコセパ」の拡販に努めるなど売上増をはかるとともに、連結子会社シノムラ化学工業株式会社との間で生産、営業、管理などの機能統合を進め、シナジー効果創出をはかってまいります。

機能性材料セグメントにつきましては、当社グループの独自技術による表面保護フィルム「サニテクトNSタイプ」の拡販の他、非光学用途向け「サニテクト」の拡販にも努

めてまいります。また、光学用途向けの需要回復までの間、生産の合理化に注力してまいります。

なお、全てのセグメントにおいて、コスト上昇分の販売価格への適正な転嫁を継続的に進め、早期の営業黒字化に向けて努めてまいります。

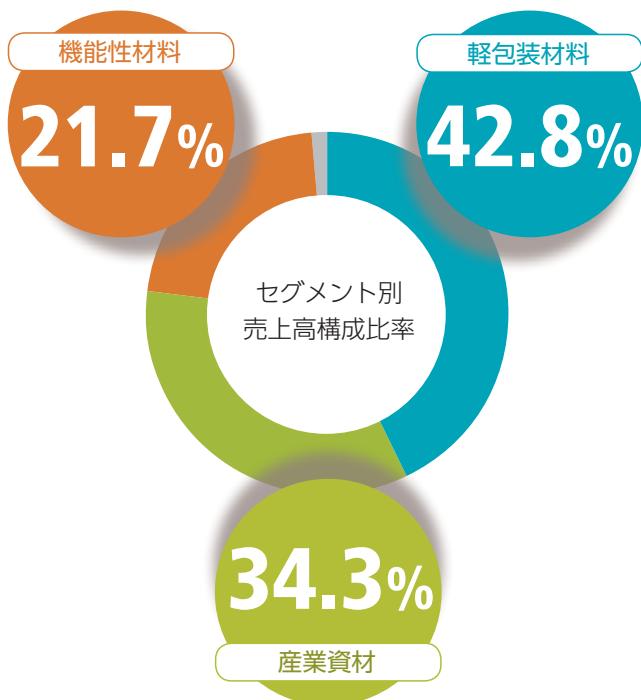
サステナビリティに関する諸課題に対しては、環境配慮型製品の開発、拡販を進めるとともに、生産工程等での省エネへの更なる取り組みにより温室効果ガスの排出量を削減する他、業界内外の企業との連携による取り組みについても検討してまいります。

その結果、当社グループの通期業績見直しは、売上高283億円（軽包装材料119億円、産業資材101億円、機能性材料60億円）（前期比1.3%減）、営業損失1億円（前期は営業利益7億41百万円）、経常利益1億20百万円（前期比87.7%減）、親会社株主に帰属する当期純利益40百万円（前期比97.4%減）を見込んでおります。

2022年12月

第2四半期決算ハイライト	
売上高	▶ 140億59百万円 (前年同期比 4.8%減)
営業損失	▶ △1億47百万円 (前年同期は6億45百万円の利益)
経常利益	▶ 27百万円 (前年同期比 96.2%減)
親会社株主に帰属する 四半期純損失	▶ △18百万円 (前年同期は5億23百万円の利益)

セグメント別のご報告



■ セグメント別売上高

売上高	140億59百万円
軽包装材料	60億22百万円
産業資材	48億24百万円
機能性材料	30億47百万円

軽包装材料



事業内容

食品、医薬品、医療器具、日用品、電子部品、精密機器等の包装材料の製造・販売を行っています。市場ニーズを的確にとらえ、内容物に最も適したパッケージを供給するとともに、自然環境に優しい包材の開発にも取り組んでいます。

当第2四半期連結累計期間の概況

行動制限の緩和に伴い社会経済活動の正常化が進み、娯楽施設や行楽地に入出が戻りはじめました。これに猛暑の影響が重なり、清涼飲料用パウチの需要が増加しました。また、電子レンジ対応食品包材「レンジD o !」の販売も好調を維持しており食品用包材は増収となりました。

また、この人出の戻りにより化粧品用包材やハンドソープ用包材などの需要が高まり、これらの用途の受注は増加しましたが、詰め替え用パウチの減少が影響し、日用品等の包材の売上は微増にとどまりました。

医薬品・医療用包材は、世界的に医療機関の診療体制が正常化に向かうなかで、検査用品用包材の受注が増加しましたが、その他の医薬品・医療用包材の受注が低調に推移したため、売上は微減となりました。

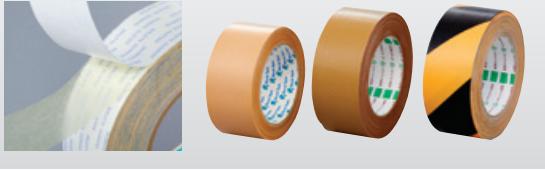
売上高の推移



※第113期売上高は、「収益認識に関する会計基準」が適用されたことにより、適用前の従来基準による算定額よりも1,331百万円減少しております。

Segment Review

産業資材



事業内容

粘着テープ・ラベル等の基材、剥離紙の製造・販売を行っています。近年は、粘着テープやラベルの用途が多様化・高度化しており、こうした要求に応え、長年にわたり培ってきたラミネート技術や離型剤塗工技術を駆使し、新製品開発を進めています。

当第2四半期連結累計期間の概況

テープ基材等に使用される紙・布へのラミネート製品については、一部テープメーカーの製品統廃合等による需給の変化や、海外製粘着テープの輸入価格上昇の影響を受けて、受注は増加しております。また、原材料価格や電力燃料費の値上がり分の価格転嫁進行もあって増収となりました。

剥離紙については、自動車関連部材向けが回復途上にあるなか、スマートフォンやタブレットの販売伸び悩みの影響を受けてFPC（フレキシブルプリント基板）用工程紙の受注が低迷し、売上は低調に推移しました。

売上高の推移

(単位:百万円)



※第113期売上高は、「収益認識に関する会計基準」が適用されたことにより、適用前の従来基準による算定額よりも2,071百万円減少しております。

機能性材料



事業内容

粘着塗工タイプ、2層押し出しタイプ、精密塗工タイプに分類される各種表面保護フィルムの製造・販売を行っています。フラットパネルディスプレイ向け偏光板や輝度向上フィルム等の光学用途から建材用途に至るまで、様々な部材を加工時・輸送時・保管時のキズ・ホコリ・汚染から保護します。

当第2四半期連結累計期間の概況

ウクライナ危機の長期化や中国経済の減速、各国の物価高騰の影響により、液晶テレビやスマートフォン等の販売は低迷しております。また、中国・上海でのロックダウンによるサプライチェーンの混乱に起因した液晶パネルの過剰在庫は、液晶パネルメーカーの大幅減産を引きおこし、これらの用途の光学用表面保護フィルムの受注が大幅に減少いたしました。

売上高の推移

(単位:百万円)



※第113期売上高は、「収益認識に関する会計基準」が適用されたことにより、適用前の従来基準による算定額よりも18百万円減少しております。

連結財務諸表

Financial Statements

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前期末 2022年3月31日現在	当第2四半期末 2022年9月30日現在
資産の部		
流動資産	22,570	22,934
現金及び預金	7,296	7,011
売上債権	10,671	10,741
たな卸資産	4,269	4,969
その他	332	212
固定資産	13,376	13,085
有形固定資産	7,060	6,880
無形固定資産	47	45
投資その他の資産	6,268	6,159
資産合計	35,946	36,020
負債の部		
流動負債	12,085	12,574
仕入債務	7,019	7,295
短期借入金	3,530	3,540
その他	1,536	1,738
固定負債	2,932	2,766
長期借入金	1,364	1,219
その他	1,567	1,547
負債合計	15,017	15,340
純資産の部		
株主資本	18,307	18,163
資本金	2,176	2,176
資本剰余金	2,238	2,238
利益剰余金	14,008	13,864
自己株式	△116	△116
その他	2,620	2,515
純資産合計	20,928	20,679
負債純資産合計	35,946	36,020

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期(累計) 2021年4月1日から 2021年9月30日まで	当第2四半期(累計) 2022年4月1日から 2022年9月30日まで
売上高	14,766	14,059
売上原価	12,505	12,679
売上総利益	2,260	1,380
販売費及び一般管理費	1,615	1,527
営業利益(△は損失)	645	△147
営業外収益	96	192
営業外費用	15	17
経常利益	726	27
特別利益	27	—
特別損失	—	58
税金等調整前四半期純利益(△は損失)	754	△30
法人税、住民税及び事業税	162	15
法人税等調整額	47	△18
非支配株主に帰属する四半期純利益(△は損失)	21	△9
親会社株主に帰属する四半期純利益(△は損失)	523	△18

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期(累計) 2021年4月1日から 2021年9月30日まで	当第2四半期(累計) 2022年4月1日から 2022年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	673	△61
投資活動によるキャッシュ・フロー	△624	△239
財務活動によるキャッシュ・フロー	△297	△64
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	78
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△242	△286
現金及び現金同等物の期首残高	6,927	7,185
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,685	6,899

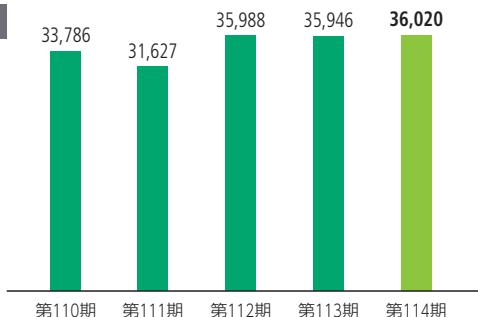
財務ハイライト

Financial Highlights

■ 総資産

(単位:百万円)

■ 第2四半期末
■ 期末



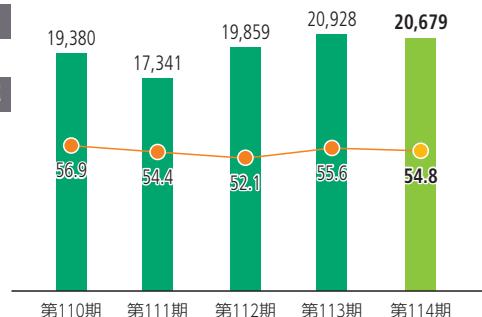
■ 純資産

(単位:百万円)

● 自己資本比率

(単位:%)

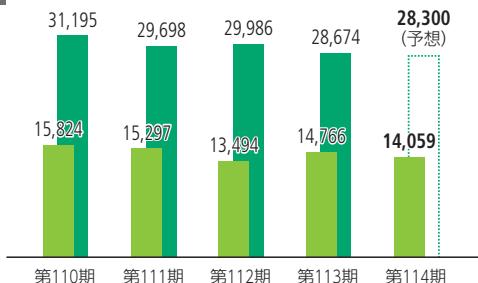
● 第2四半期末
● 期末



■ 売上高

(単位:百万円)

■ 第2四半期末
■ 期末

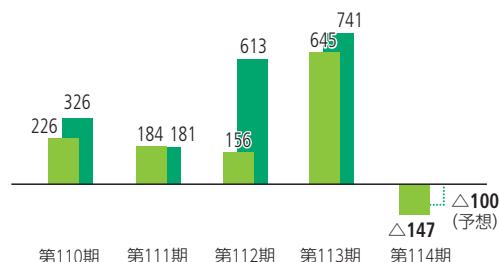


※第113期売上高は、「収益認識に関する会計基準」が適用されたことにより、適用前の従来基準による算定額よりも3,436百万円減少しております。

■ 営業利益

(単位:百万円)

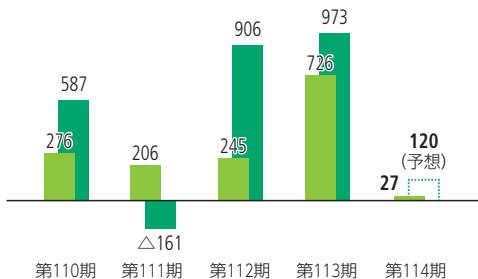
■ 第2四半期末
■ 期末



■ 経常利益

(単位:百万円)

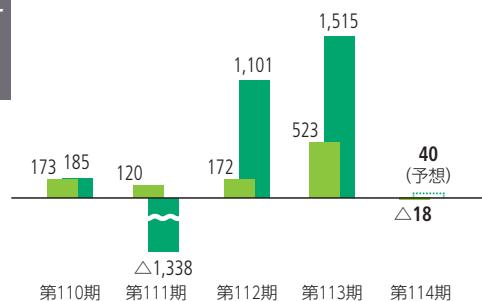
■ 第2四半期末
■ 期末



■ 親会社株主に 帰属する 四半期(当期) 純利益

(単位:百万円)

■ 第2四半期末
■ 期末



トピックス ● 当社80年の軌跡

株式会社 サンエー化研

おかげさまで創立80周年
www.sun-e-kaken.co.jp

当社は、おかげさまで2022年9月2日に創立80周年を迎えました。
ここでは、これまでの歩みをご紹介します。

- 1951 昭和26 • 清水工場建設
• アスファルト塗工紙「SKターポリン紙」上市
- 1953 昭和28 • 清水工場がJIS管理優秀工場として工業技術院長賞受賞
- 1957 昭和32 • ポリエチレン加工紙「ポリラム」上市
- 1958 昭和33 • 食品包装用「ポリセロ」上市
• 「ポリラムA」が通商産業大臣賞受賞
- 1959 昭和34 • 布粘着テープ用基材「布ポリラム」上市



静岡加工紙工業当時の清水工場

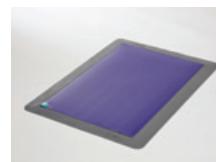


布ポリラム使用製品

- 1970 昭和45 • 袋井工場建設
- 1974 昭和49 • 感熱タイプ表面保護フィルム「PAC」上市
- 1977 昭和52 • キャップ付パウチ「ビルパック」上市
- 1978 昭和53 • イージーオープン「サンシール」上市
• 防塵マット「サージカルマット」上市



サンシール



サージカルマット

1940

1950

1960

1970

1980

- 1942 昭和17 • 『静岡加工紙共販株式会社』設立
• 防湿・防水紙「ターポリン紙」の販売を開始
- 1945 昭和20 • 商号を『静岡加工紙工業株式会社』に変更



静岡加工紙工業当時の清水工場

- 1961 昭和36 • 剥離紙「セパレーター」上市
- 1962 昭和37 • 『化研工業株式会社』設立
- 1964 昭和39 • 商号を『サンエー化学工業株式会社』に変更
• 研究所開設、清水工場を静岡工場と改称、札幌工場建設
- 1966 昭和41 • 重包装用包材「樹脂クロス」上市
- 1968 昭和43 • 表面保護フィルム「サニテクト」上市
• MIL製品が防衛庁の認可を取得
- 1969 昭和44 • 「サニテクト」が日本包装技術協会会長賞受賞



セパレーター



サニテクト

- 1990 平成 2 • 導電性キャリアテープ、カバーテープ「アドピール」上市
- 1995 平成 7 • 電子レンジ用加熱調理袋「レンジDo！」上市
- 1996 平成 8 • 化研工業株式会社と合併し、商号を『株式会社サンエー化研』に変更
• スパウト付パウチ「ソフトパウチ」上市
- 1998 平成10 • オーダーメイド表面保護フィルム「SAT」上市



レンジDo！

- 2010 平成22 • 電材用工程紙「アドテラ」上市
• 「レンジDo！」ST型・セパレ型上市
- 2011 平成23 • ポリエステル基材セパレーターレス表面保護フィルム「サニテクトNSタイプ」上市
- 2012 平成24 • 強粘着タイプ表面保護フィルム「強粘着PAC」上市
- 2013 平成25 • 奈良工場・関西支店がFSSC22000認証を取得
- 2015 平成27 • 「旭櫻（上海）商貿有限公司」を設立
- 2016 平成28 • 掛川工場WEST建設
• 研究所を静岡県掛川市に移転し、R&Dセンターと改称



レンジDo！ST型



掛川工場WEST・R&Dセンター

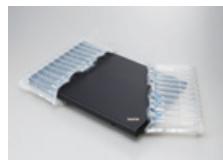
1990

2000

2010

2020

- 1981 昭和56 • 静岡工場が軟包装衛生協会の加工衛生管理基準認定工場となる
- 1988 昭和63 • 「エア-緩衝材」上市



エア-緩衝材

- 2000 平成12 • 日本証券業協会に株式を店頭登録（株式店頭公開）
• 東邦樹脂工業株式会社の発行済株式数90%を取得
- 2001 平成13 • ISO9001：2000認証取得
- 2004 平成16 • ISO14001：1996認証取得
- 2005 平成17 • 掛川工場建設
• 医薬品包装材「テクニフィルム」上市
- 2006 平成18 • ISO14001：2004認証移行



テクニフィルム

- 2020 令和 2 • シノムラ化学工業株式会社の発行済株式数51%を取得
• 抗菌・抗ウイルステープ「パイプロテープ」上市
- 2021 令和 3 • 「レンジDo!」をベースに味の素様と共同開発したパウチが2020日本パッケージングコンテスト・テクニカル包装賞及びワールドスターコンテスト2021・ワールドスター賞受賞
• 防災用窓ガラス飛散防止テープ「台風対策テープ」上市
• 抗菌・抗ウイルステープ「パイプロテープ」がSIAAマークを取得



パイプロテープ



「レンジDo!」をベースに味の素様と共同開発したパウチの採用例

株式の状況・会社概要

2022年9月30日現在

Stock Information & Corporate Data

株式の状況

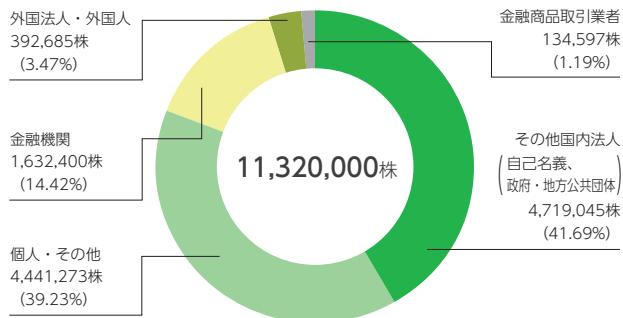
発行可能株式総数	45,000,000株
発行済株式の総数	11,320,000株
株主数	2,686名

大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
新生紙パルプ商事株式会社	1,812,200	16.51
昭和パックス株式会社	1,244,200	11.33
サンエー化研社員持株会	404,800	3.68
株式会社三菱UFJ銀行	310,000	2.82
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・昭和パックス株式会社口)	300,000	2.73
みずほ信託銀行株式会社 (退職給付信託 昭和パックス株式会社口)	300,000	2.73
株式会社みずほ銀行	200,000	1.82
双日プラネット株式会社	175,000	1.59
山田美千代	121,000	1.10
UNEARTH INTERNATIONAL LIMITED	120,000	1.09

- 1.当社は、自己株式を345,345株保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
- 2.持株比率は自己株式(345,345株)を控除しております。

所有者別株式分布状況



会社概要

商号	株式会社サンエー化研
本社所在地	東京都中央区日本橋本町1-7-4
事業所	関西支店、名古屋営業所、台北営業所 静岡工場、袋井工場、掛川工場、掛川工場WEST、 奈良工場 R&Dセンター
設立	1942年9月
資本金	21億76百万円
従業員数	510名
主な事業内容	紙、プラスチック、金属箔等を主原材料とする 軽包装材料、剥離紙、粘着テープ基材、表面保護 フィルム等、包装材料関連製品の製造及び販売

連結子会社

東邦樹脂工業株式会社	本社・工場／栃木県下都賀郡野木町野木148
シノムラ化学工業株式会社	本社・工場／静岡県袋井市国本291
灿櫻(上海)商貿有限公司	中国上海市長寧区虹橋路

役員

代表取締役社長	山本明広	社外取締役	藤澤廣一
常務取締役	櫻田武志	社外取締役	野口隆一
取締役	芝彦尚	常勤監査役	佐藤誠一
取締役	山本元	監査役	井上眞樹夫
		監査役	湯口毅

(注) 監査役 井上眞樹夫及び湯口毅の両氏は、社外監査役です。

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主確定日	3月31日(期末配当) 9月30日(中間配当)
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
ご連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711(通話料無料) 郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東証スタンダード市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.sun-a-kaken.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします)

株式事務に関するお問い合わせ

- 住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取請求等のお申出先について
証券会社に口座を開設されている株主様は、当該証券会社にお問い合わせください。
証券会社に口座がないため特別口座に記録されている株主様は、上記の特別口座の口座管理機関(兼株主名簿管理人)である、三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部にお問い合わせください。
- 払渡期間経過後のお取り扱い
配当金領収証の裏面に受取方法を指定し、三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部までご郵送いただくか、同銀行全国各支店窓口にてお受け取りください。

ホームページのご案内

当社の詳細なIR情報は、ホームページをご覧ください。

当社ホームページの〈IR情報〉では、詳細な情報を掲載しております。

また新製品情報をはじめ、業務内容や最新の企業情報、展示会情報等についてもご覧いただけます。



URL ▶ <https://www.sun-a-kaken.co.jp>

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(QUOカードPay500円)を進呈させていただきます



<https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **4234**

いいかぶ

検索



空メールにより
URL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



スマートフォン

右のQRコードをカメラで読み取れば、スマートフォンからもアクセスできます。

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



※本アンケートは、株式会社リンクコーポレートコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。 <https://www.link-cc.co.jp>

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
MAIL: info@e-kabunushi.com